

天文学将来計画検討小委員会議事

学術会議・天文学研究連絡委員会の中におかれた表記のような小委員会が5月31日学術会議で開催された。小委員としては本誌3月号67頁の部門別の世話人としてあげられた奥田、虎尾、長沢、末元、清水、大沢、宮本、斎藤(国)、古畑、高倉、海野、古在各氏の外に3月13日の小委員会で上野、高窪、一柳、広瀬、藤田諸氏が追加され、合計17名である。

5月31日の会合で小委員会の委員長に古畑氏が選出され、幹事として海野、古在両氏が指名された。当日の主な議事は次の通りである。

5月9日の日本天文学会主催の天文学将来計画にかんするシンポジウムについて、同シンポジウムの世話役をつとめた虎尾委員から、当日の討論内容は天文月報にのせ、またシンポジウムが開かれたいきさつについてもまともめたいとの発言があった。また当日司会をつとめた一柳委員から、同シンポジウムでは、この小委員会をある程度オープンにすること、作業グループなどに若い人も入れることなどの希望が多かったとの印象がのべられた。

さしあたりの小委員会でなすべきことは、6月中に少くとも向う5ヶ年についての計画をまとめることであるが、この作業は第一次案及びそれ以後の資料をもとにして委員長、幹事が草案をつくり、各委員に書面で意見をきくことにした。その基礎にな事項について各委員から意見がのべられた。

また、研究機関新設、拡充などの要望が種々あるので、研究体制の作業グループをつくり、さしあたって現状の分析からとりかかることに決めた。そのグループの

構成はとりあえず海野・古在両委員に杉本(名大)、石田(恵)(東京天文台)、東北大、緯度観測所各1名とすることにした。

なお、電波天文学について、太陽以外の観測機械について更に案をねりなおす必要があるという発言があり、これにかんする作業グループも近い将来につくり、書面で各委員に承認をもとめてもよいことがみとめられた。

また席上大望遠鏡設置に関する作業グループの広瀬、清水、大沢の3委員が4月7日京都大学で会合して作成した、次のような報告書が披露された。

現在大望遠鏡は、いわゆる恒星天文方面と分光天文の方面の研究を推進する上に不可欠のものである。

今後の10年間を考えるなら、恒星天文学の推進のための望遠鏡が現在ない事を考慮して口径130cm(50")程度のシュミット・タイプの機械はおそくとも5年以内に設置にとりかかるべきである。この機械は適当な設計のもとに分光研究にも活用すべきであり、かつその様な希望は強い。

分光天文学の推進のためには4年前に188cm(74")の反射望遠鏡が設置され、一応研究の進展の基礎がおかれたが、10年後を考えるなら、現有の2倍の口径のものが是非とも必要になろう。この大望遠鏡は恒星天文学にとっても個々の天体について研究する場合必要不可欠であり、この方面からの要求も強い。

大望遠鏡に対し、学界全体の将来計画としてとりあげべきものは上記の2点である。小口径のものは種々計画されたいが、大計画となるものはないようである。

学会だより

◇天文学会秋季年会について

日本天文学会秋季年会は10月8、9両日、仙台市東北大学において開催の予定です。講演を申込まれる方は、本号折込みの申込用紙に所要の項目を御記入の上、400字以内の講演内容のアブストラクトとともに、8月31日までに本会宛に御送り下さい。プログラムの印刷期日に余裕のないため、申込期日は厳守して下さい。会場の詳細は、9月号に掲載予定です。

また講演希望者の中で、出張旅費支出の困難な方は、本会より数名に旅費補助が可能です。申込用紙は、須川、高窪、赤羽、川口、三沢の各支部理事の手許にありますから、希望者は最寄の支部理事に御相談下さい。

仙台で宿泊を希望される方は、旅館名のリストが、上記支部理事の手許にありますから、御覧の上各自で予約して下さい。

◇大塚奨学金の希望者募集の訂正事項について

前号でお知らせいたしました大塚奨学金は、細則の変更によって10月末日までに応募者の選考を行います。したがって、御応募される方は9月20日までに理事長に申し出て下さい。詳細は天文月報7月号151頁を参照して下さい。

◇会員名簿作製について

昭和37年に作った天文学会々員名簿は、最近品切れとなり、また訂正・追加すべき項も多くなりましたので、近いうちに新しい会員名簿を作製いたします。正確を期するため、会員の皆様に記載事項の確認を求めるアンケートの回答をお願いすると予定です。